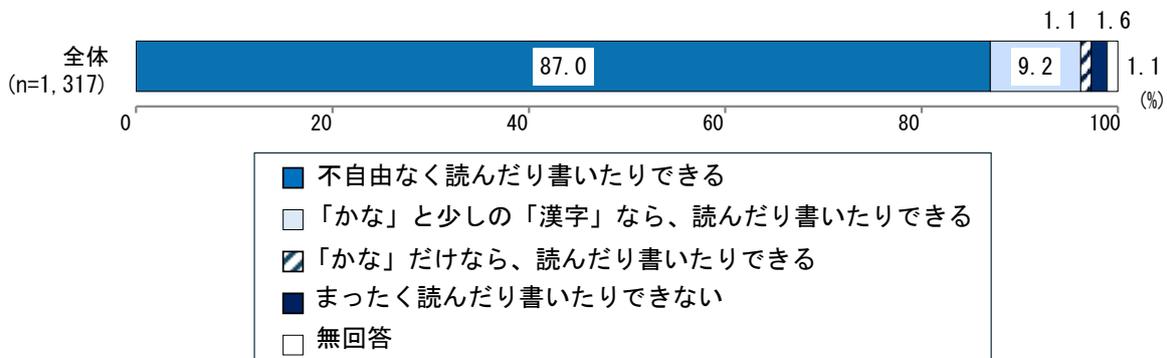


2. 識字について

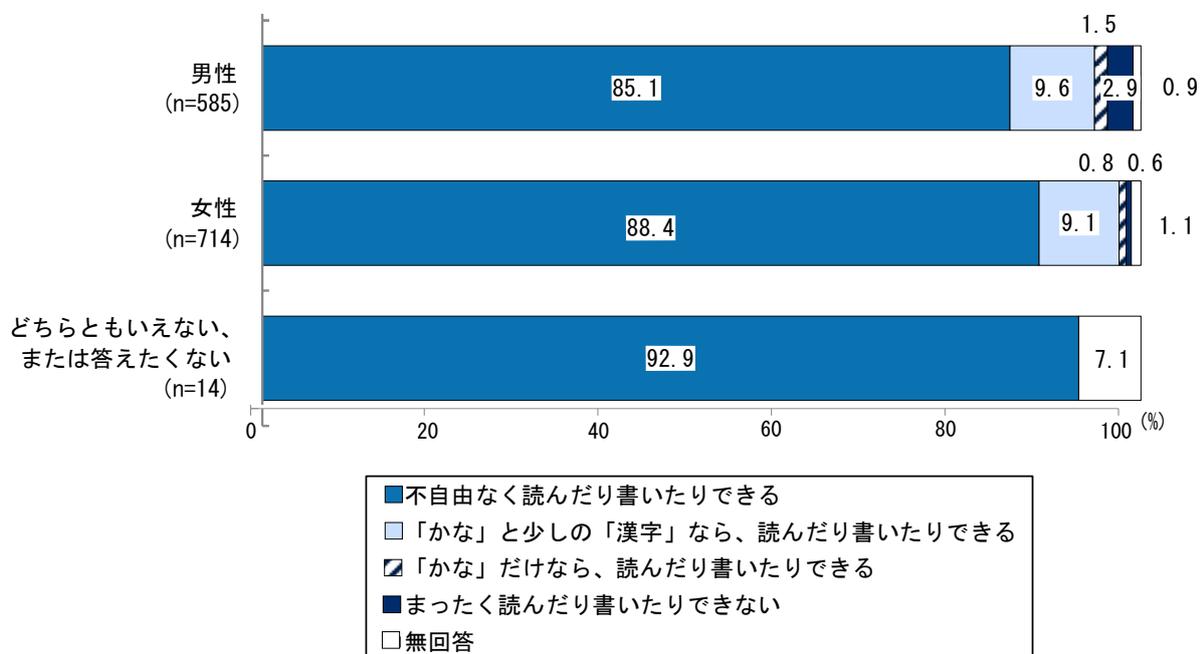
問 12 あなたはどの程度、新聞を読んだり手紙を書いたりできますか。(○は1つ)

図 2-1 どの程度新聞を読んだり手紙を書いたりできるか



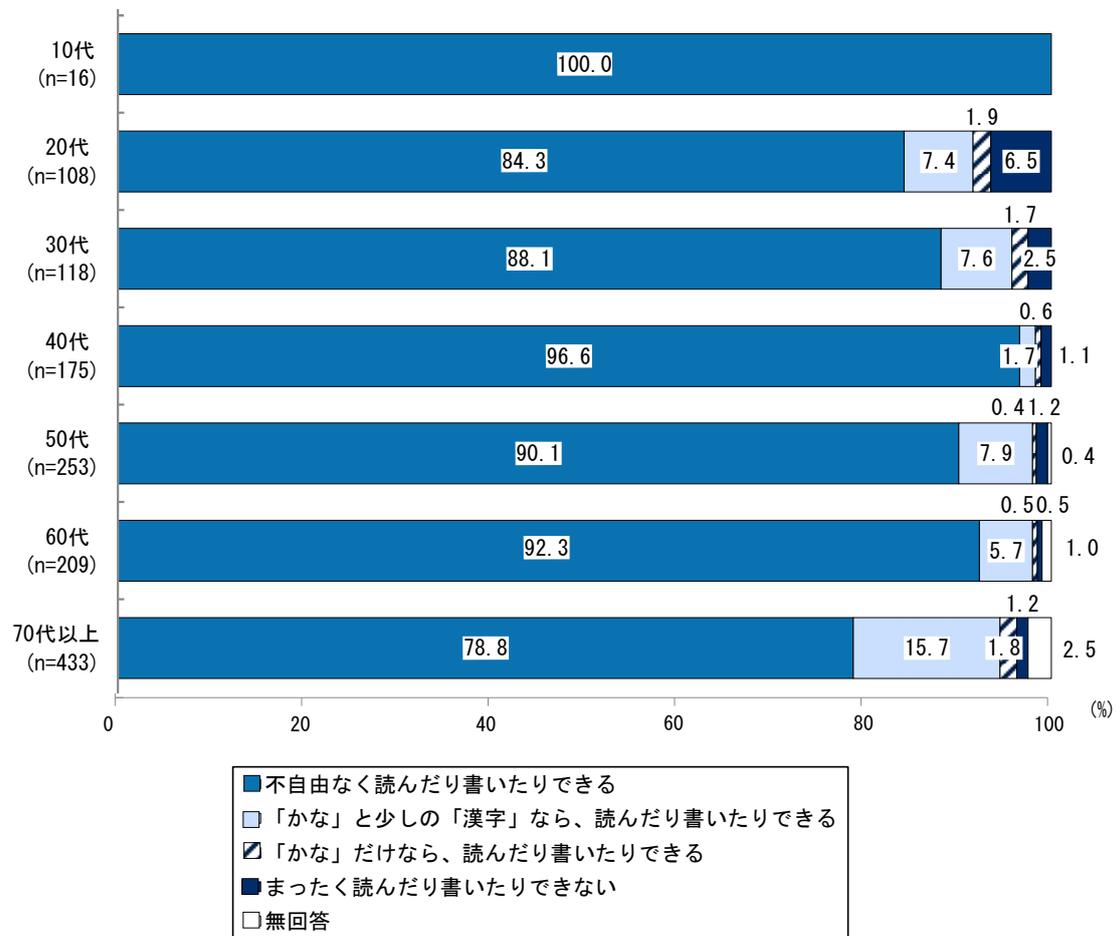
回答者自身が、どの程度新聞を読んだり手紙を書いたりできるかをたずねた。「不自由なく読んだり書いたりできる」が87.0%、「『かな』と少しの『漢字』なら、読んだり書いたりできる」が9.2%、「『かな』だけなら、読んだり書いたりできる」が1.1%、「まったく読んだり書いたりできない」が1.6%となっている。(図 2-1)

図 2-2 性別 どの程度新聞を読んだり手紙を書いたりできるか



性別にみると、男女ともに「不自由なく読んだり書いたりできる」が最も高く、男性で85.1%、女性で88.4%となっている。(図 2-2)

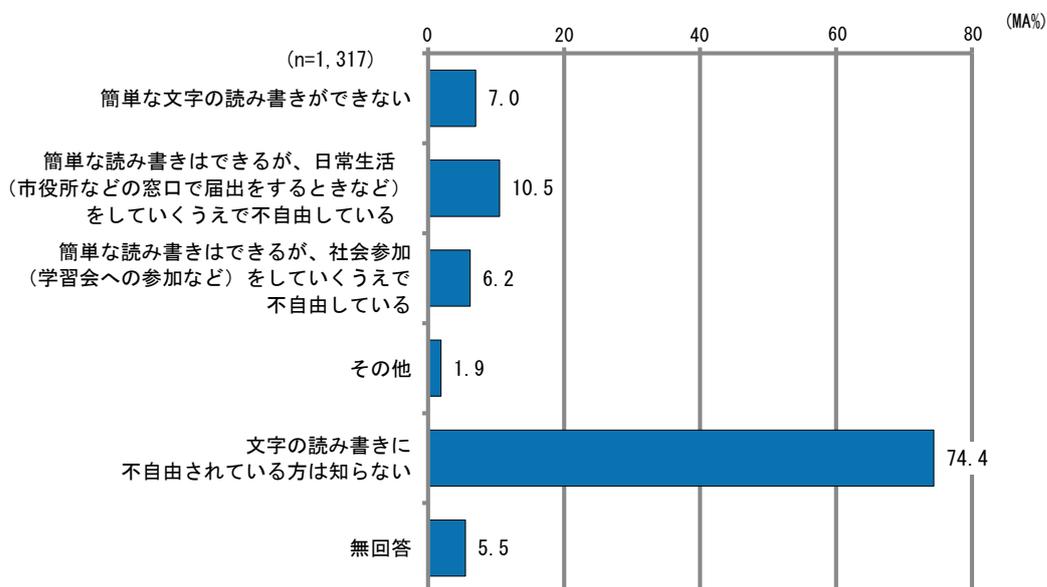
図 2-3 年代別 どの程度新聞を読んだり手紙を書いたりできるか



年代別にみると、すべての年代で「不自由なく読んだり書いたりできる」が最も高く、60代以下では80%を超えている。(図 2-3)

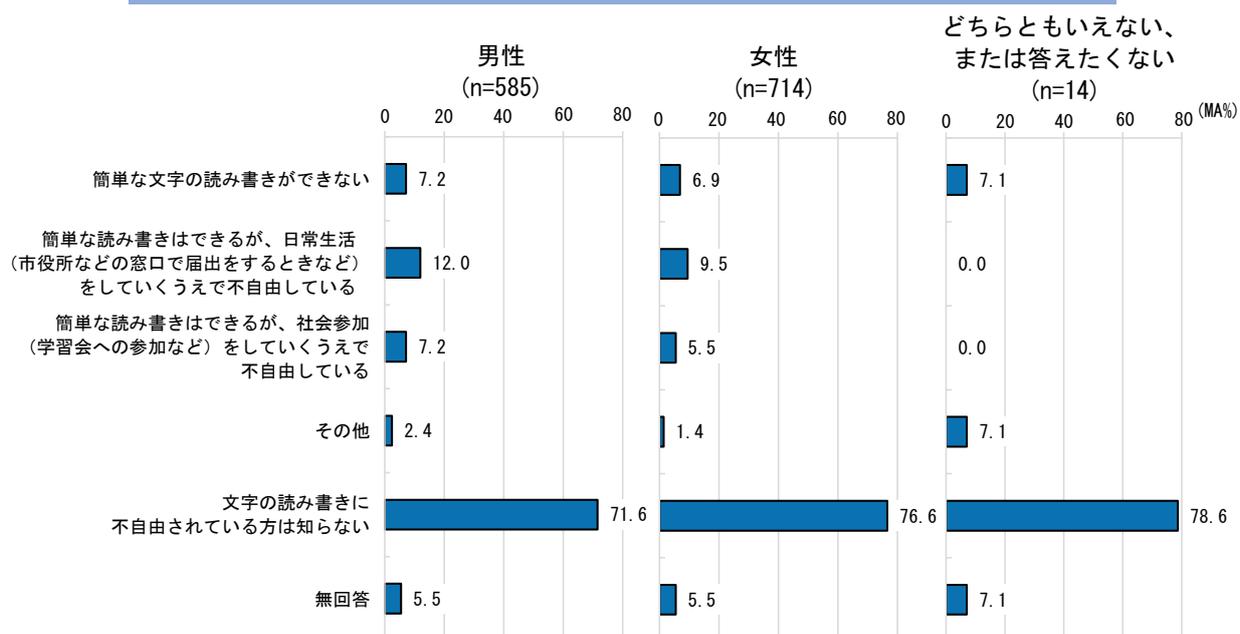
問 13 あなたが知っている、文字の読み書きに不自由されている方はどのような状態ですか。(〇はいくつでも)

図 2-4 文字の読み書きに不自由されている方の状態



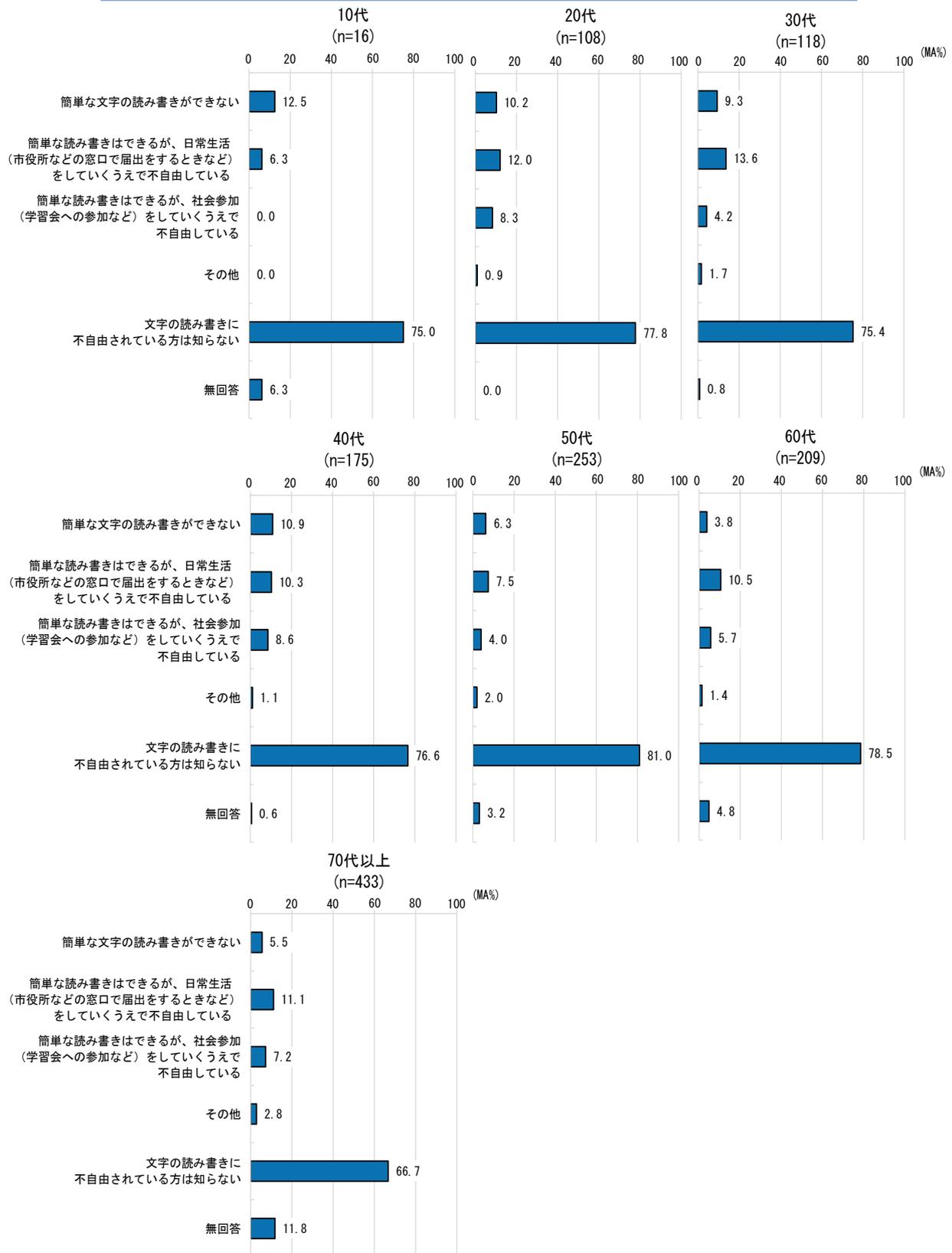
回答者が知っている、文字の読み書きに不自由されている方はどのような状態かをたずねた。「文字の読み書きに不自由されている方は知らない」が74.4%と最も高く、次いで「簡単な読み書きはできるが、日常生活（市役所などの窓口で届出をするときなど）をしていくうえで不自由している」が10.5%、「簡単な文字の読み書きができない」が7.0%となっている。(図 2-4)

図 2-5 性別 文字の読み書きに不自由されている方の状態



性別にみると、男女ともに「文字の読み書きに不自由されている方は知らない」が最も高く、男性で71.6%、女性で76.6%となっている。(図 2-5)

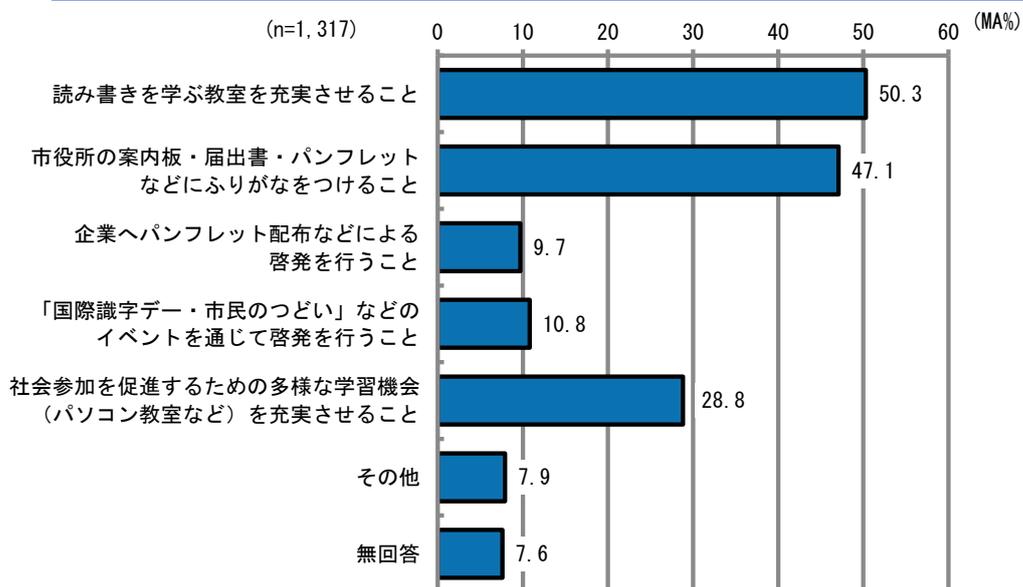
図 2-6 年代別 文字の読み書きに不自由されている方の状態



年代別にみると、すべての年代で「文字の読み書きに不自由されている方は知らない」が最も高く、50代で81.0%、60代で78.5%となっている。また、「簡単な文字の読み書きができない」は、10代、20代、40代で10%を超えている。(図 2-6)

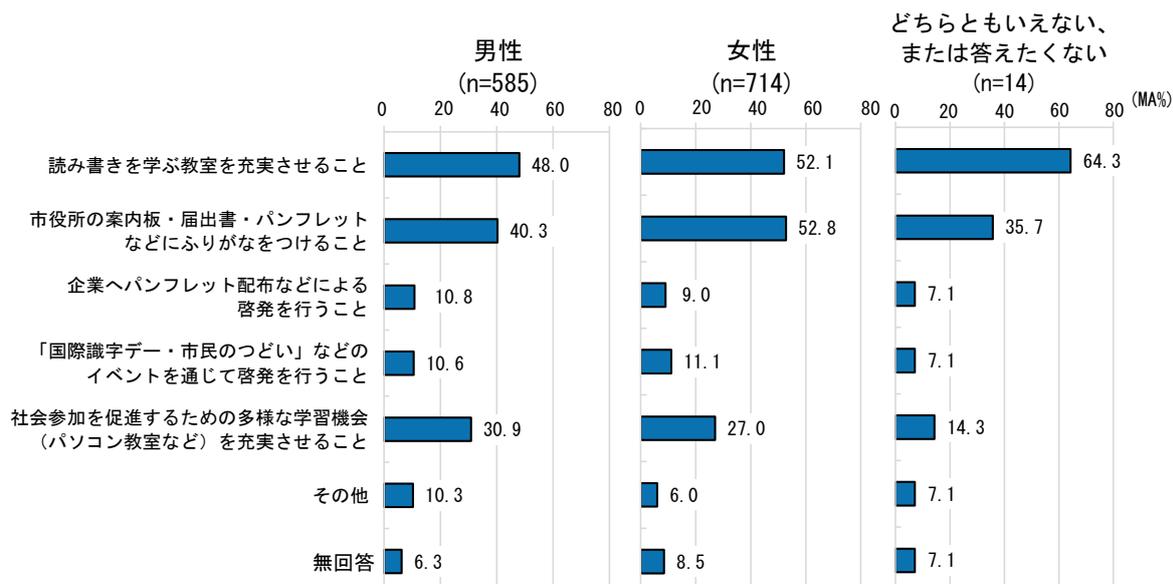
問 14 読み書きに不自由されている方のために、今後市として取り組むべきことは、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 2-7 読み書きに不自由されている方のために取り組むべきこと



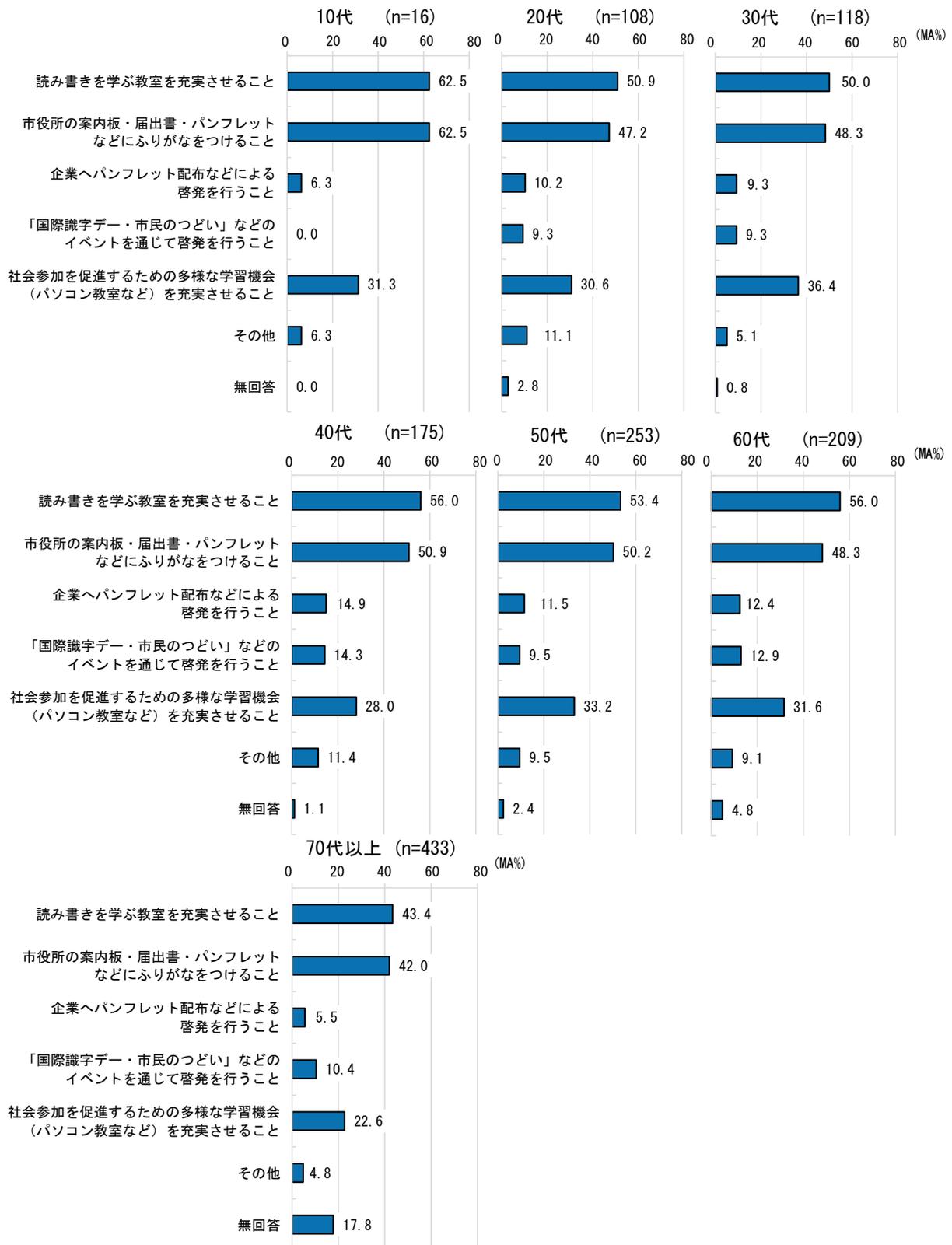
読み書きに不自由されている方のために、今後市として取り組むべきことはどのようなことかをたずねた。「読み書きを学ぶ教室を充実させること」が50.3%と最も高く、次いで「市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつけること」が47.1%、「社会参加を促進するための多様な学習機会(パソコン教室など)を充実させること」が28.8%となっている。(図 2-7)

図 2-8 性別 読み書きに不自由されている方のために取り組むべきこと



性別にみると、男性では「読み書きを学ぶ教室を充実させること」が最も高く、48.0%となっている。女性では、「市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつけること」が52.8%と最も高く、男性の40.3%を12.5ポイント上回っている。(図 2-8)

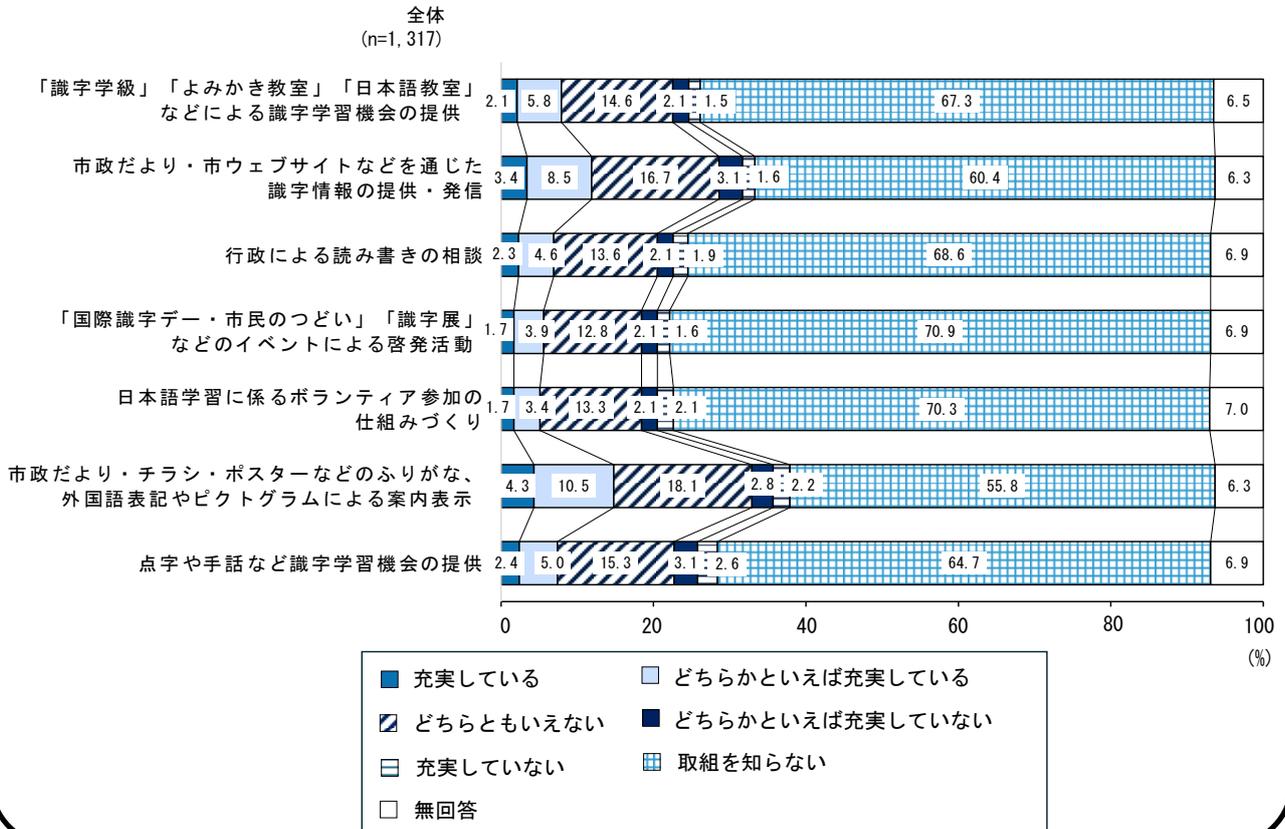
図 2-9 年代別 読み書きに不自由されている方のために取り組むべきこと



年代別にみると、すべての年代で「読み書きを学ぶ教室を充実させること」が最も高く、次いで「市役所の案内板・届出書・パンフレットなどにふりがなをつけること」(10代は同率)となっている。(図 2-9)

問 15 本市が実施している識字問題への取組は、どの程度充実していると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

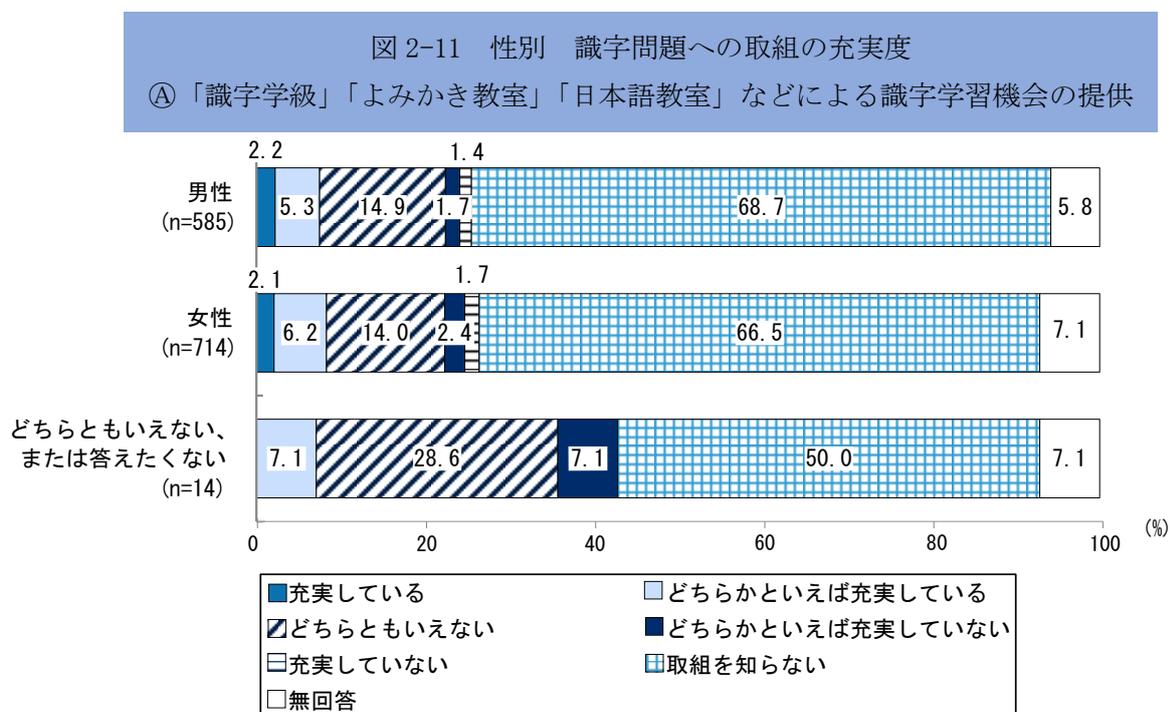
図 2-10 識字問題への取組の充実度



市が実施している識字問題への各取組が、どの程度充実していると思うかをたずねた。

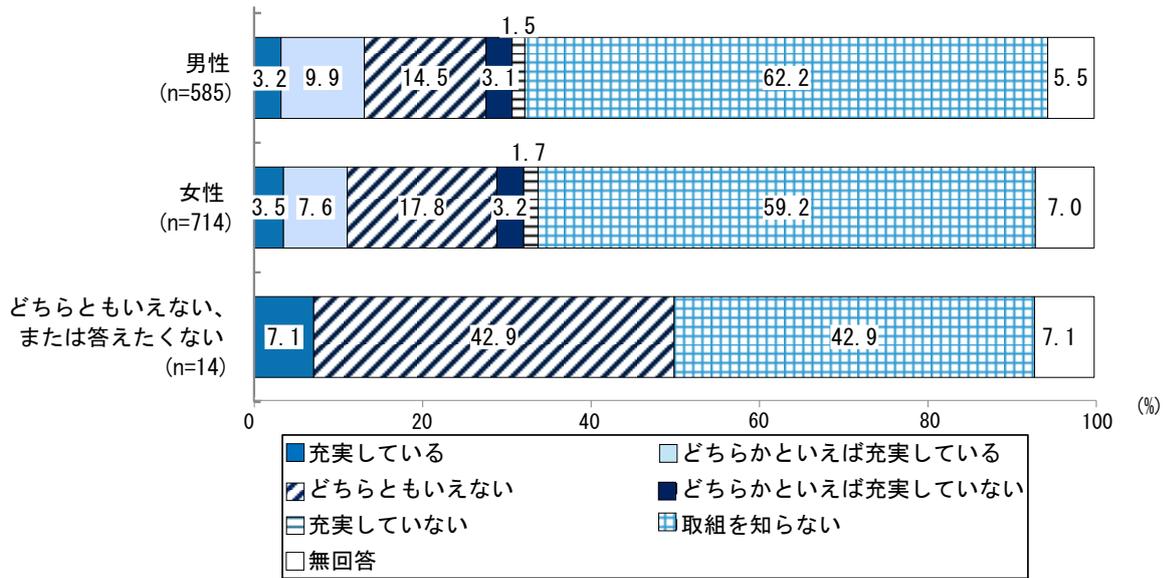
- ①『「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供』について、「充実している」が2.1%、「どちらかといえば充実している」が5.8%、「どちらともいえない」が14.6%、「どちらかといえば充実していない」が2.1%、「充実していない」が1.5%、「取組を知らない」が67.3%となっている。
- ②『市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信』について、「充実している」が3.4%、「どちらかといえば充実している」が8.5%、「どちらともいえない」が16.7%、「どちらかといえば充実していない」が3.1%、「充実していない」が1.6%、「取組を知らない」が60.4%となっている。
- ③『行政による読み書きの相談』について、「充実している」が2.3%、「どちらかといえば充実している」が4.6%、「どちらともいえない」が13.6%、「どちらかといえば充実していない」が2.1%、「充実していない」が1.9%、「取組を知らない」が68.6%となっている。
- ④『「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動』について、「充実している」が1.7%、「どちらかといえば充実している」が3.9%、「どちらともいえない」が12.8%、「どちらかといえば充実していない」が2.1%、「充実していない」が1.6%、「取組を知らない」が70.9%となっている。

- ⑤『日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり』について、「充実している」が1.7%、「どちらかといえば充実している」が3.4%、「どちらともいえない」が13.3%、「どちらかといえば充実していない」が2.1%、「充実していない」が2.1%、「取組を知らない」が70.3%となっている。
- ⑥『市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示』について、「充実している」が4.3%、「どちらかといえば充実している」が10.5%、「どちらともいえない」が18.1%、「どちらかといえば充実していない」が2.8%、「充実していない」が2.2%、「取組を知らない」が55.8%となっている。
- ⑦『点字や手話など識字学習機会の提供』について、「充実している」が2.4%、「どちらかといえば充実している」が5.0%、「どちらともいえない」が15.3%、「どちらかといえば充実していない」が3.1%、「充実していない」が2.6%、「取組を知らない」が64.7%となっている。(図2-10)



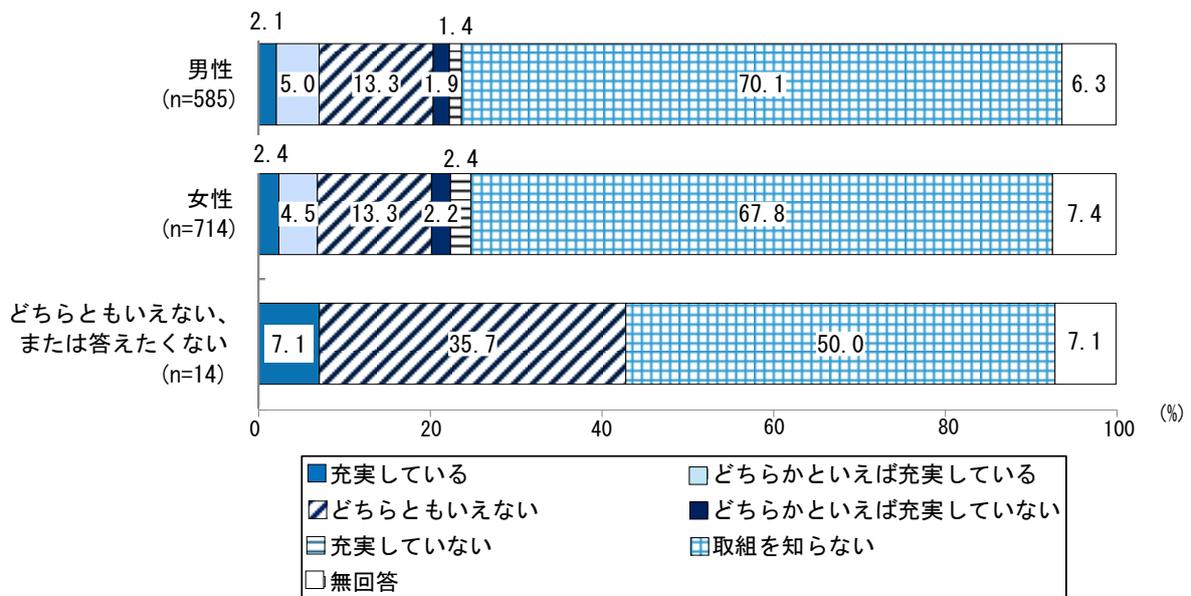
性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で7.5%、女性で8.3%となっている。(図2-11)

図 2-12 性別 識字問題への取組の充実度
 ㊸ 市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信



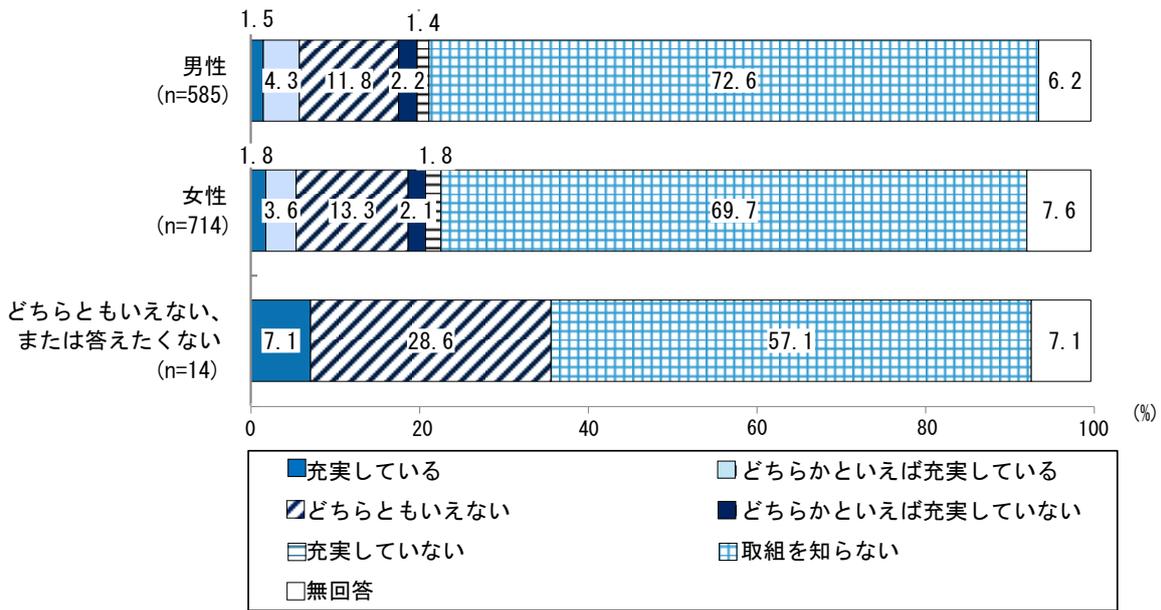
性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で13.1%、女性で11.1%となっている。(図 2-12)

図 2-13 性別 識字問題への取組の充実度
 ㊹ 行政による読み書きの相談



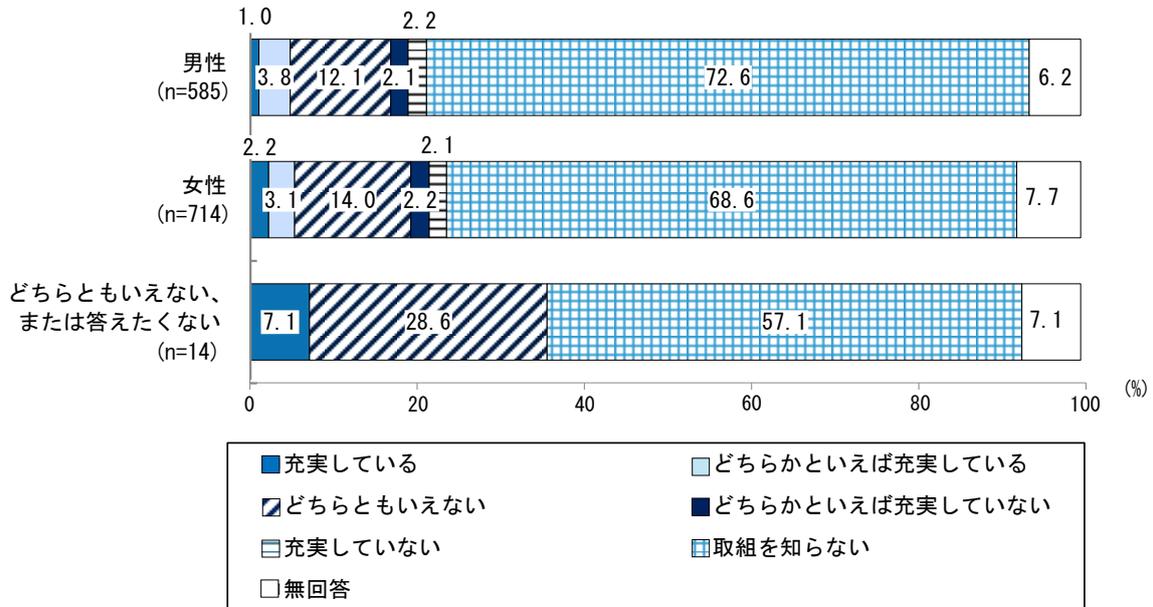
性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で7.1%、女性で6.9%となっている。(図 2-13)

図 2-14 性別 識字問題への取組の充実度
 ㊦「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動



性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で5.8%、女性で5.4%となっている。(図 2-14)

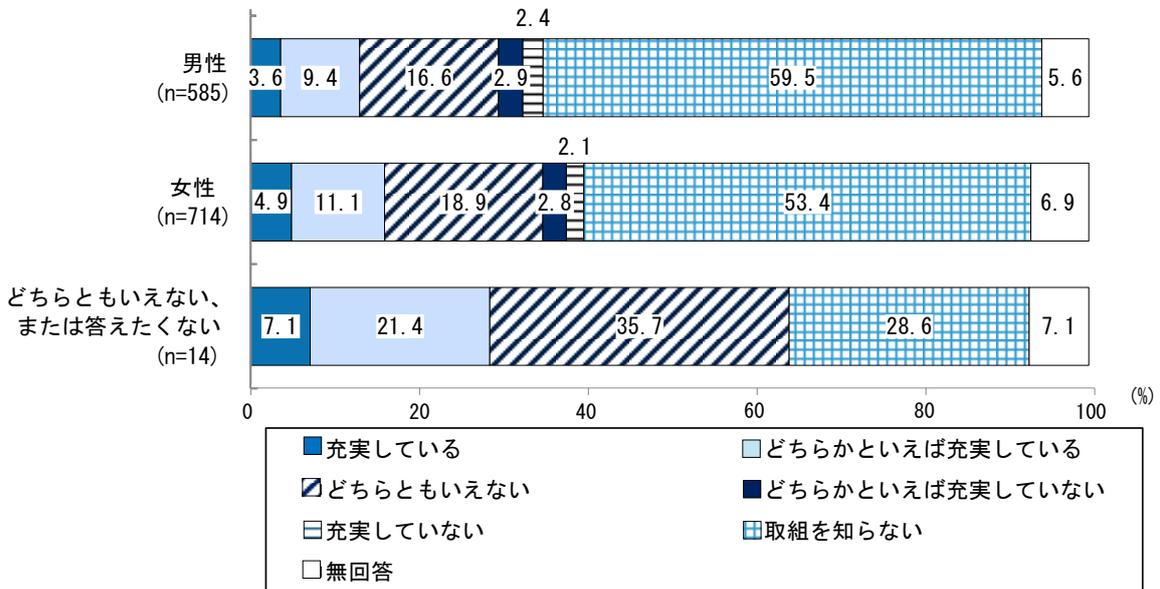
図 2-15 性別 識字問題への取組の充実度
 ㊧日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり



性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で4.8%、女性で5.3%となっている。(図 2-15)

図 2-16 性別 識字問題への取組の充実度

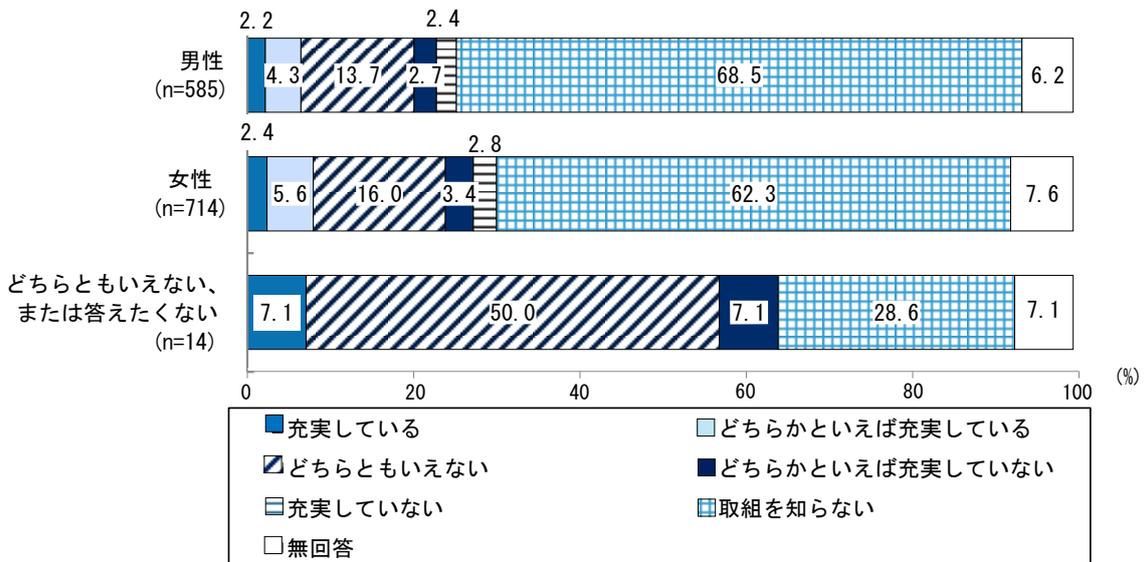
㊦ 市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示



性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で13.0%、女性で16.0%となっている。(図 2-16)

図 2-17 性別 識字問題への取組の充実度

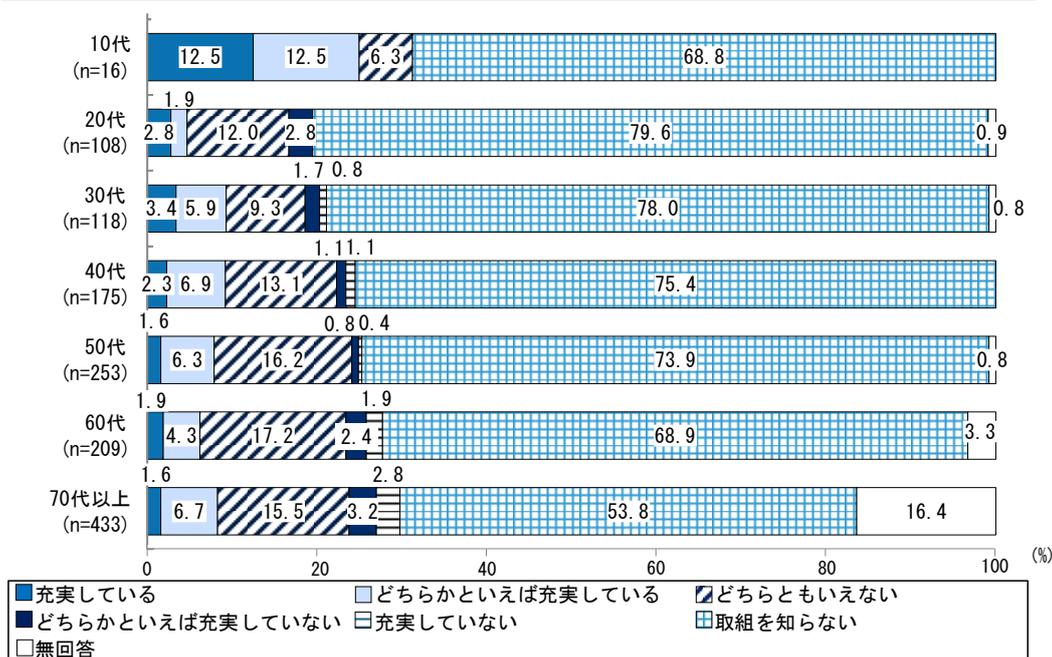
㊧ 点字や手話など識字学習機会の提供



性別にみると、男女ともに「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、男性で6.5%、女性で8.0%となっている。(図 2-17)

図 2-18 年代別 識字問題への取組の充実度

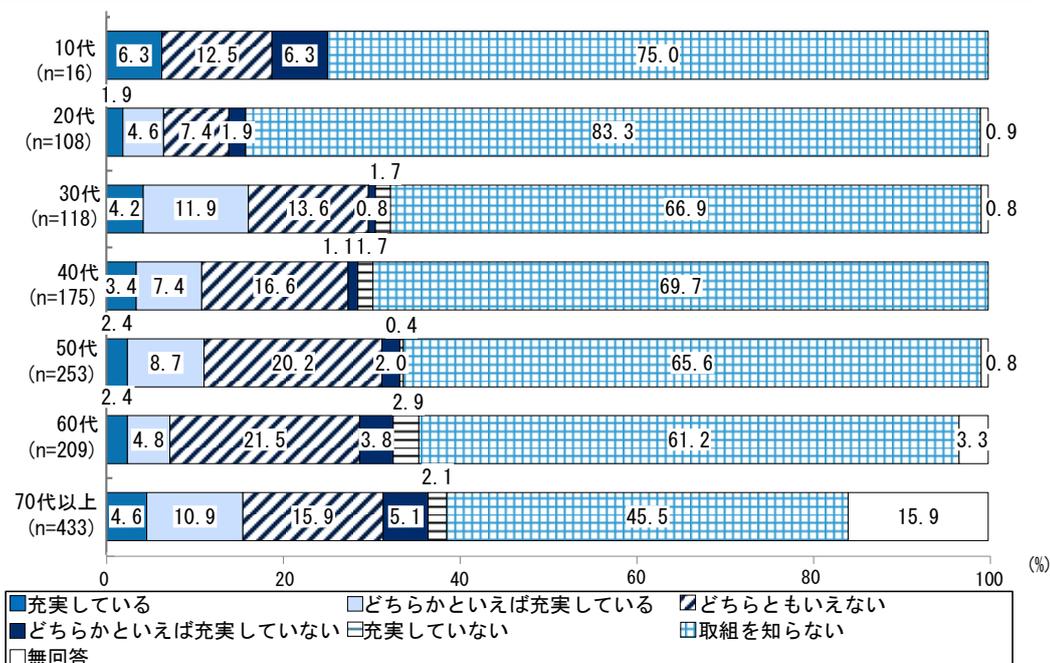
㉔ 「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、10代で25.0%、30代で9.3%となっている。(図 2-18)

図 2-19 年代別 識字問題への取組の充実度

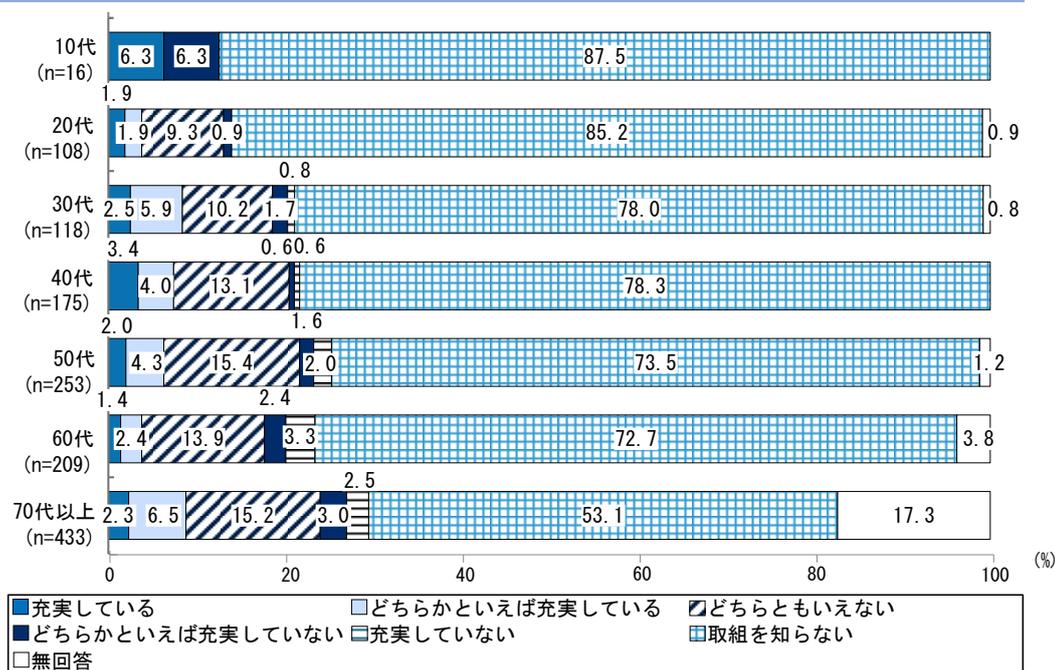
㉕ 市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、30代で16.1%、70代以上で15.5%となっている。(図 2-19)

図 2-20 年代別 識字問題への取組の充実度

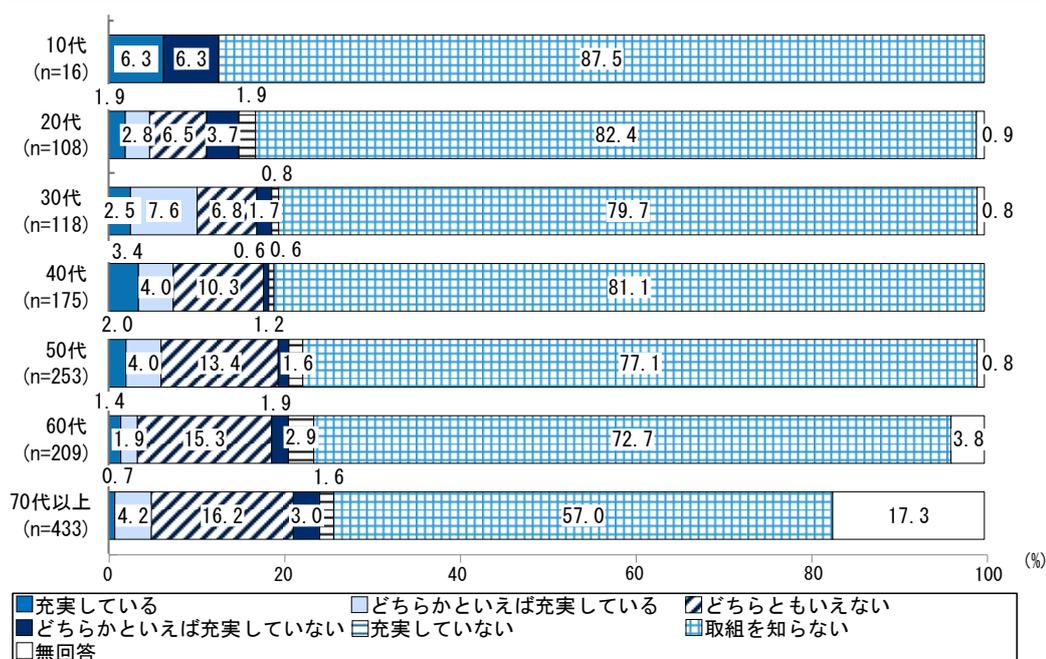
◎行政による読み書きの相談



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、70代以上で8.8%、30代で8.4%となっている。(図 2-20)

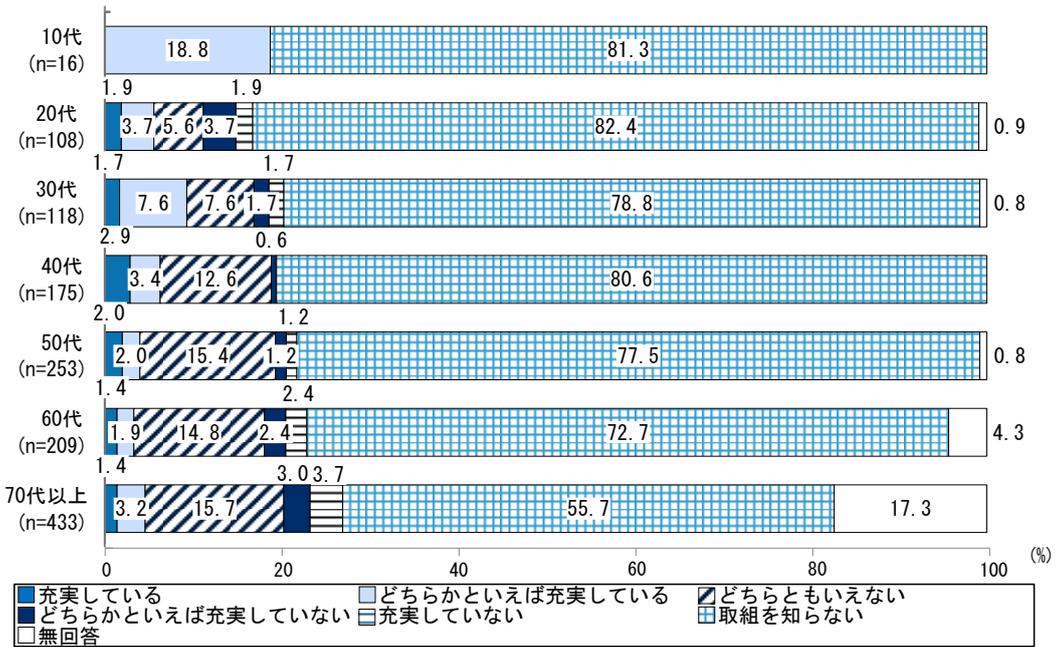
図 2-21 年代別 識字問題への取組の充実度

①「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動



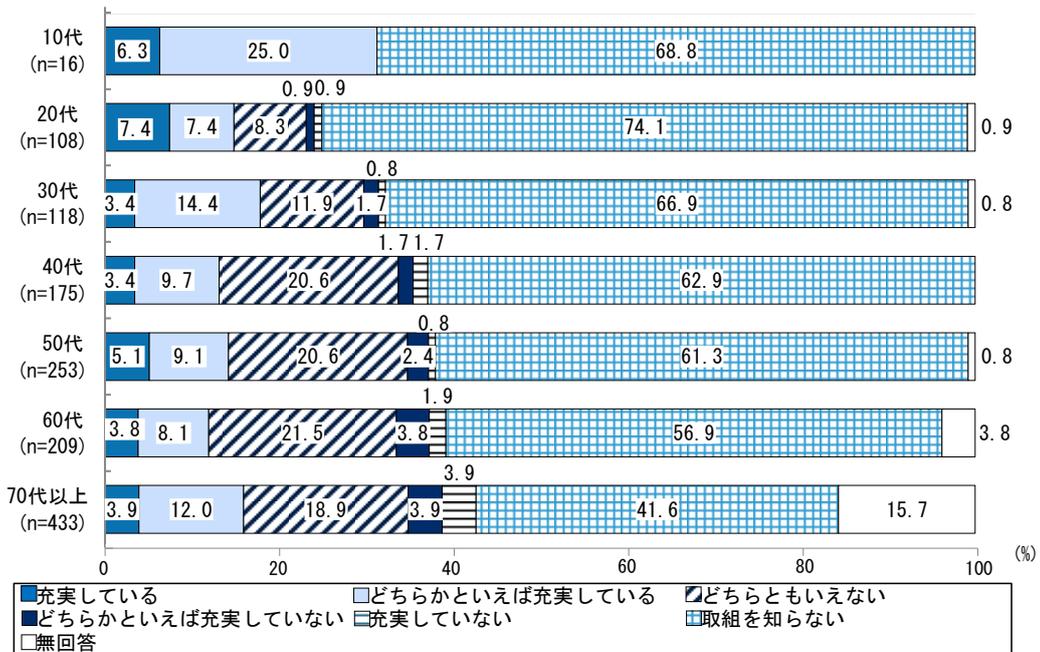
年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、30代で10.1%、40代で7.4%となっている。(図 2-21)

図 2-22 年代別 識字問題への取組の充実度
 ㊦ 日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、10代18.8%、30代で9.3%となっている。(図 2-22)

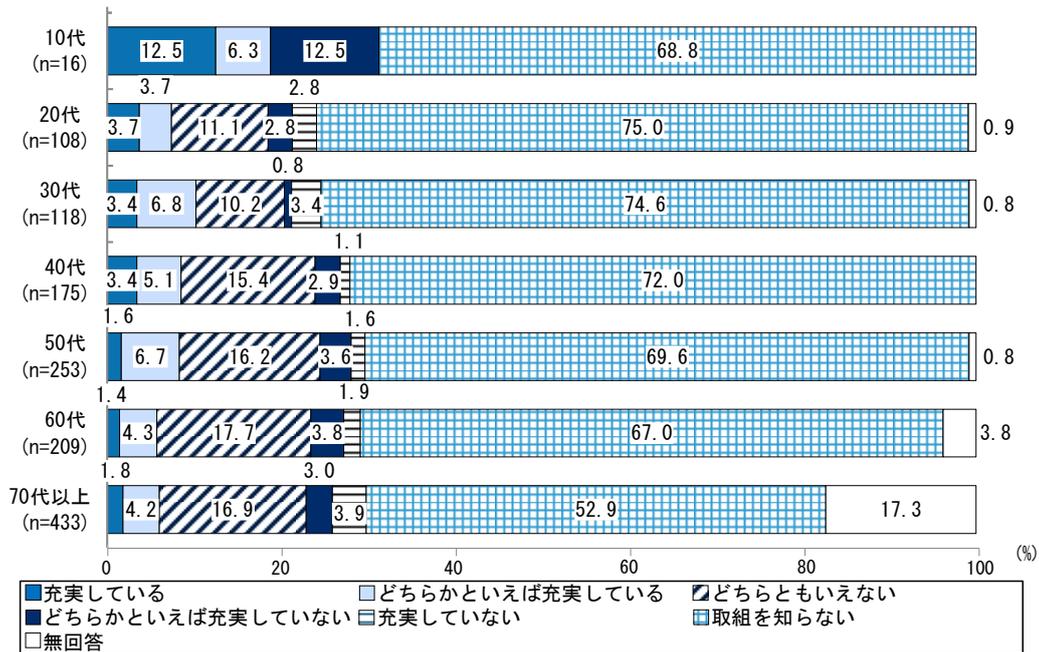
図 2-23 年代別 識字問題への取組の充実度
 ㊦ 市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、10代31.3%、30代で17.8%となっている。(図 2-23)

図 2-24 年代別 識字問題への取組の充実度

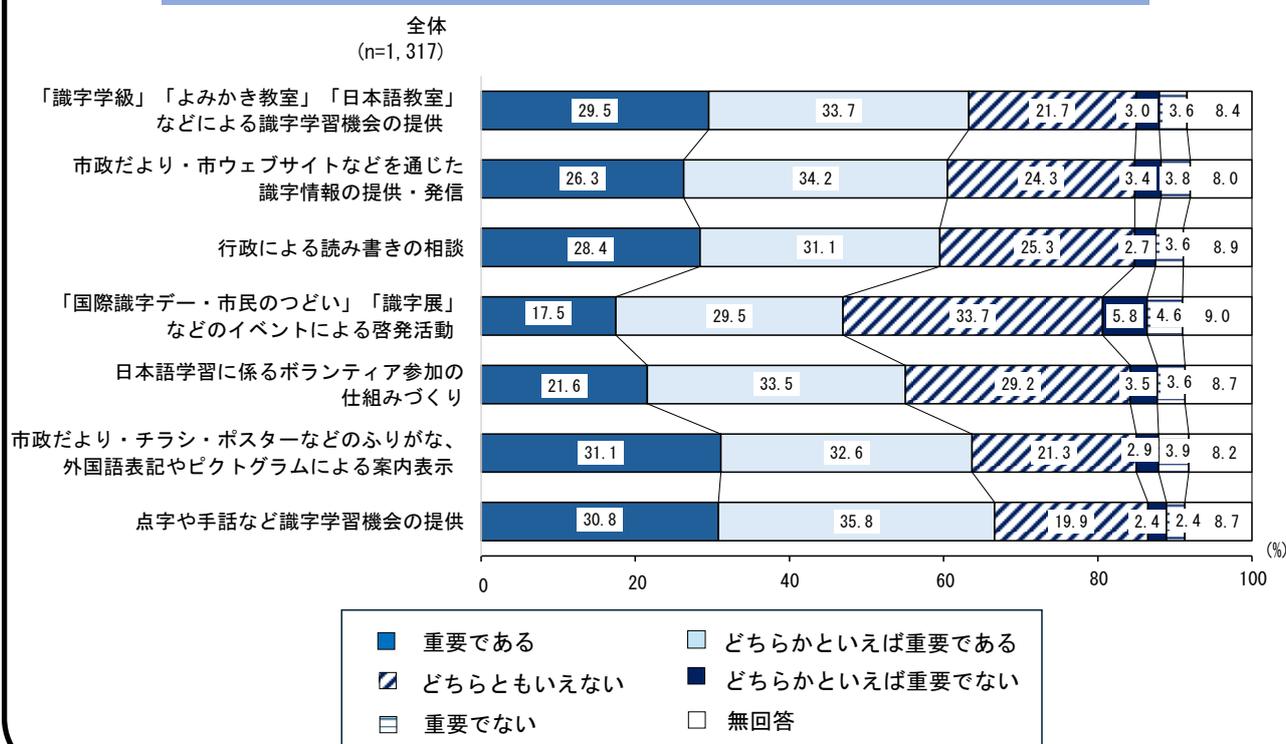
㊦点字や手話など識字学習機会の提供



年代別にみると、すべての年代で「取組を知らない」が最も高くなっている。また、「充実している」と「どちらかといえば充実している」をあわせた『充実している』の回答は、10代18.8%、30代で10.2%となっている。(図 2-24)

問 16 本市が実施している識字問題への取組は、どの程度重要だと思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

図 2-25 識字問題への取組の重要度

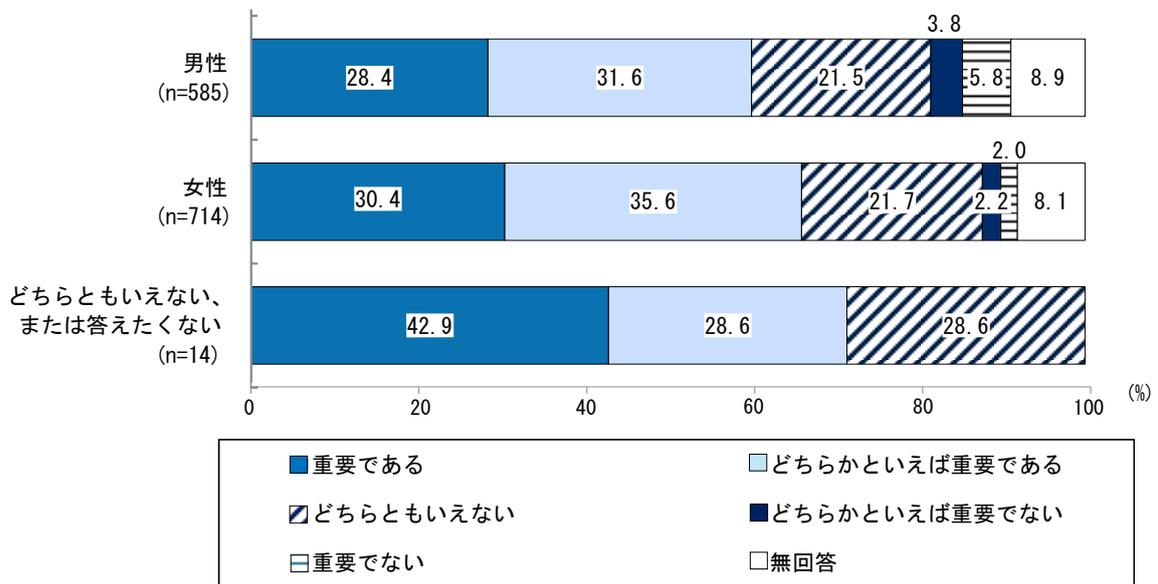


市が実施している識字問題への各取組が、どの程度重要だと思うかをたずねた。

- ①『「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供』について、「重要である」が29.5%、「どちらかといえば重要である」が33.7%、「どちらともいえない」が21.7%、「どちらかといえば重要でない」が3.0%、「重要でない」が3.6%となっている。
- ②『市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信』について、「重要である」が26.3%、「どちらかといえば重要である」が34.2%、「どちらともいえない」が24.3%、「どちらかといえば重要でない」が3.4%、「重要でない」が3.8%となっている。
- ③『行政による読み書きの相談』について、「重要である」が28.4%、「どちらかといえば重要である」が31.1%、「どちらともいえない」が25.3%、「どちらかといえば重要でない」が2.7%、「重要でない」が3.6%となっている。
- ④『「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動』について、「重要である」が17.5%、「どちらかといえば重要である」が29.5%、「どちらともいえない」が33.7%、「どちらかといえば重要でない」が5.8%、「重要でない」が4.6%となっている。
- ⑤『日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり』について、「重要である」が21.6%、「どちらかといえば重要である」が33.5%、「どちらともいえない」が29.2%、「どちらかといえば重要でない」が3.5%、「重要でない」が3.6%となっている。

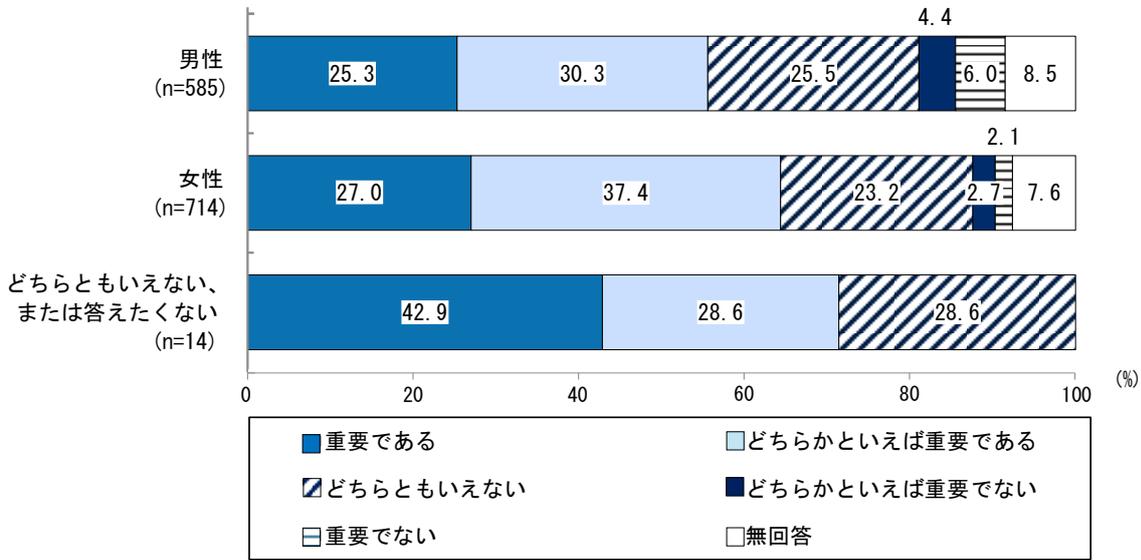
- ⑥『市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示』について、「重要である」が31.1%、「どちらかといえば重要である」が32.6%、「どちらともいえない」が21.3%、「どちらかといえば重要でない」が2.9%、「重要でない」が3.9%となっている。
- ⑦『点字や手話など識字学習機会の提供』について、「重要である」が30.8%、「どちらかといえば重要である」が35.8%、「どちらともいえない」が19.9%、「どちらかといえば重要でない」が2.4%、「重要でない」が2.4%となっている。(図2-25)

図2-26 性別 識字問題への取組の重要度
 ①「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供



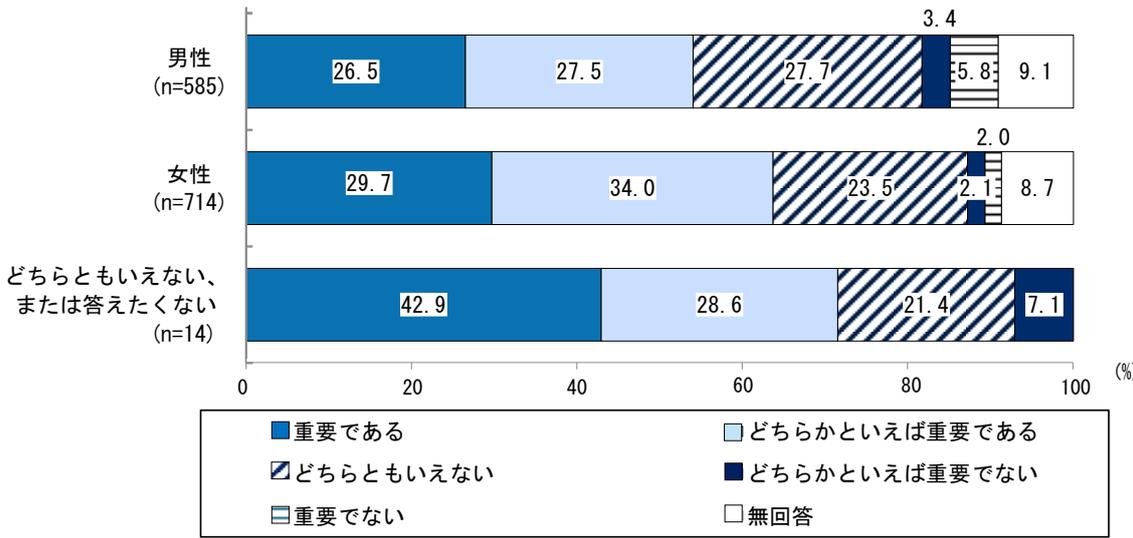
性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で60.0%、女性で66.0%となっており、女性が男性を6.0ポイント上回っている。(図2-26)

図 2-27 性別 識字問題への取組の重要度
 ㊸市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信



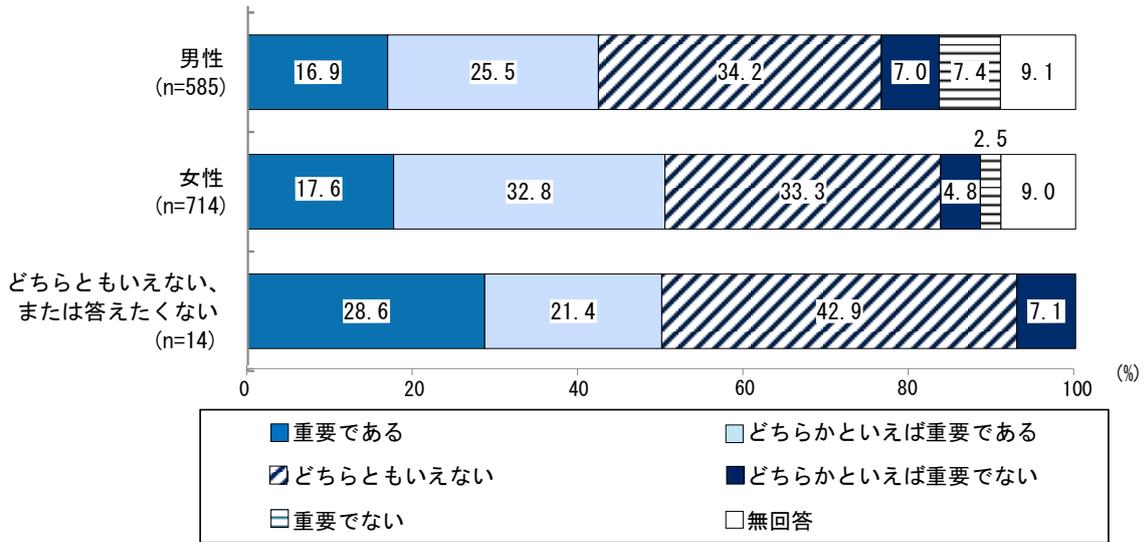
性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で55.6%、女性で64.4%となっており、女性が男性を8.8ポイント上回っている。(図 2-27)

図 2-28 性別 識字問題への取組の重要度
 ㊹行政による読み書きの相談



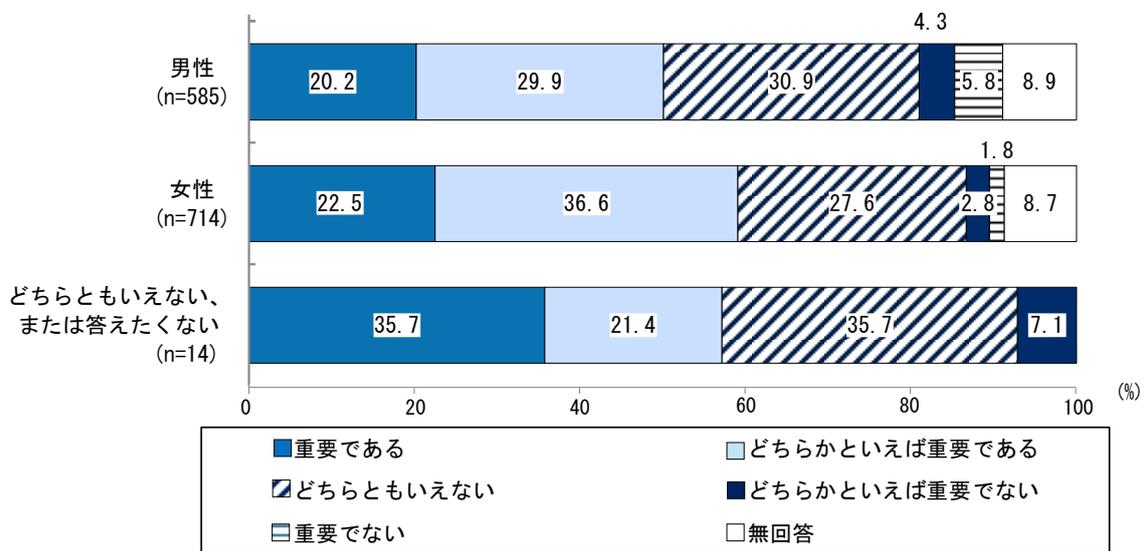
性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で54.0%、女性で63.7%となっており、女性が男性を9.7ポイント上回っている。(図 2-28)

図 2-29 性別 識字問題への取組の重要度
 ④「国際識字デー・市民のつどい」「識字展」などのイベントによる啓発活動



性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で42.4%、女性で50.4%となっており、女性が男性を8.0ポイント上回っている。(図 2-29)

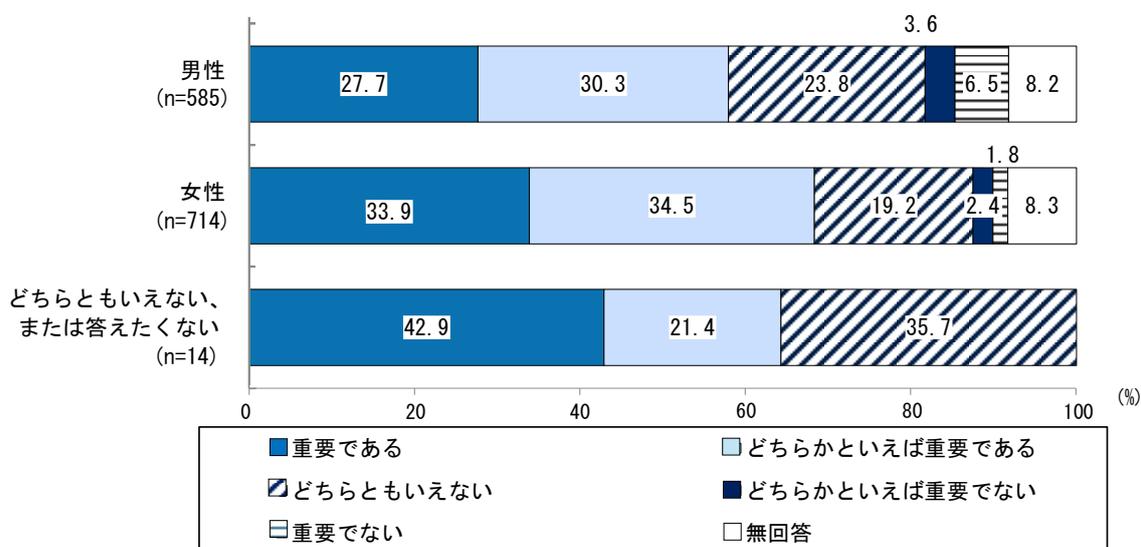
図 2-30 性別 識字問題への取組の重要度
 ⑤日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり



性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で50.1%、女性で59.1%となっており、女性が男性を9.0ポイント上回っている。(図 2-30)

図 2-31 性別 識字問題への取組の重要度

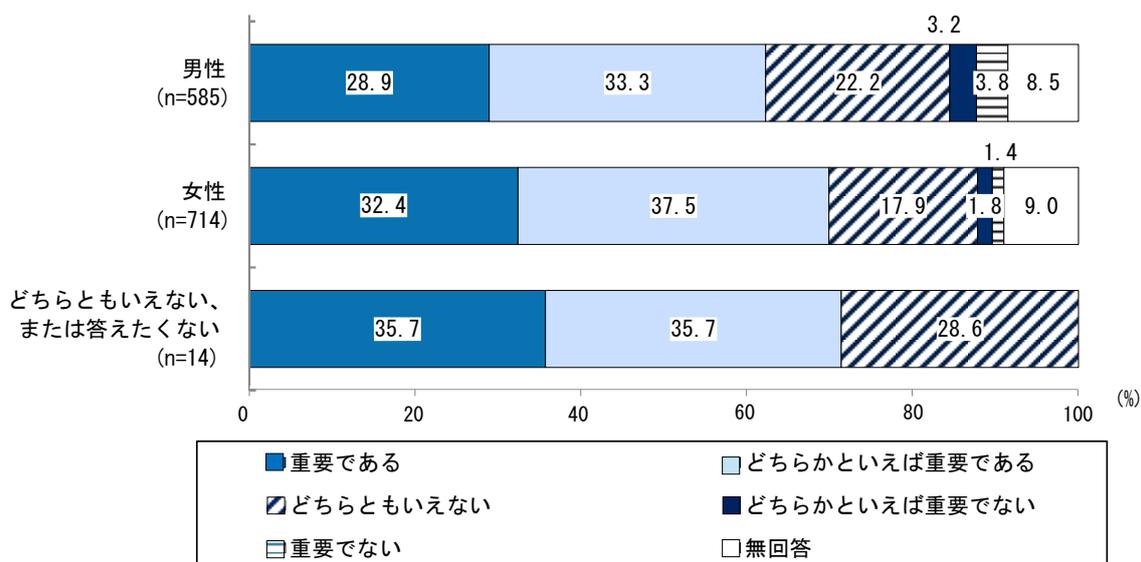
㊦ 市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示



性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で58.0%、女性で68.4%となっており、女性が男性を10.4ポイント上回っている。(図 2-31)

図 2-32 性別 識字問題への取組の重要度

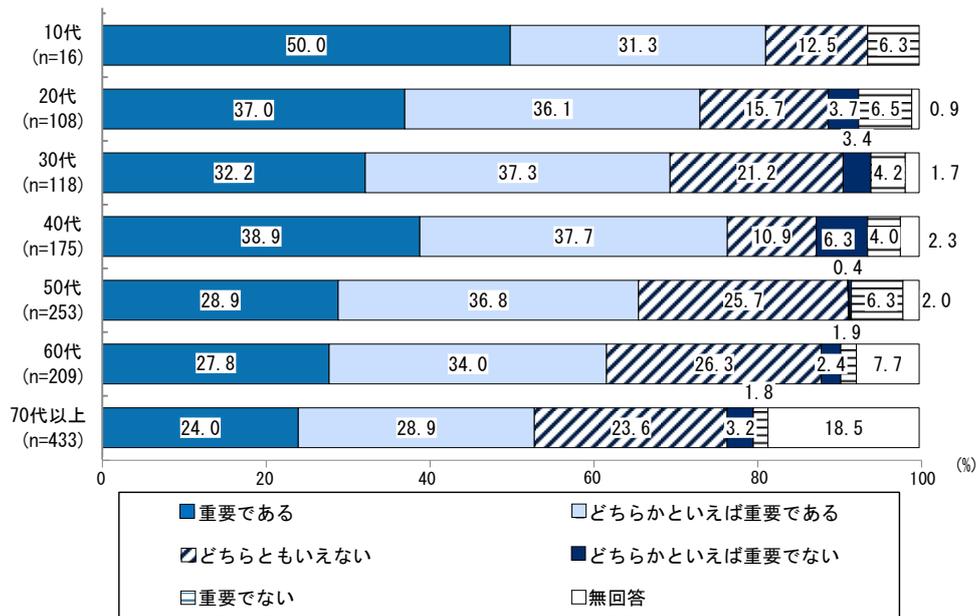
㊧ 点字や手話など識字学習機会の提供



性別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、男性で62.2%、女性で69.9%となっており、女性が男性を7.7ポイント上回っている。(図 2-32)

図 2-33 年代別 識字問題への取組の重要度

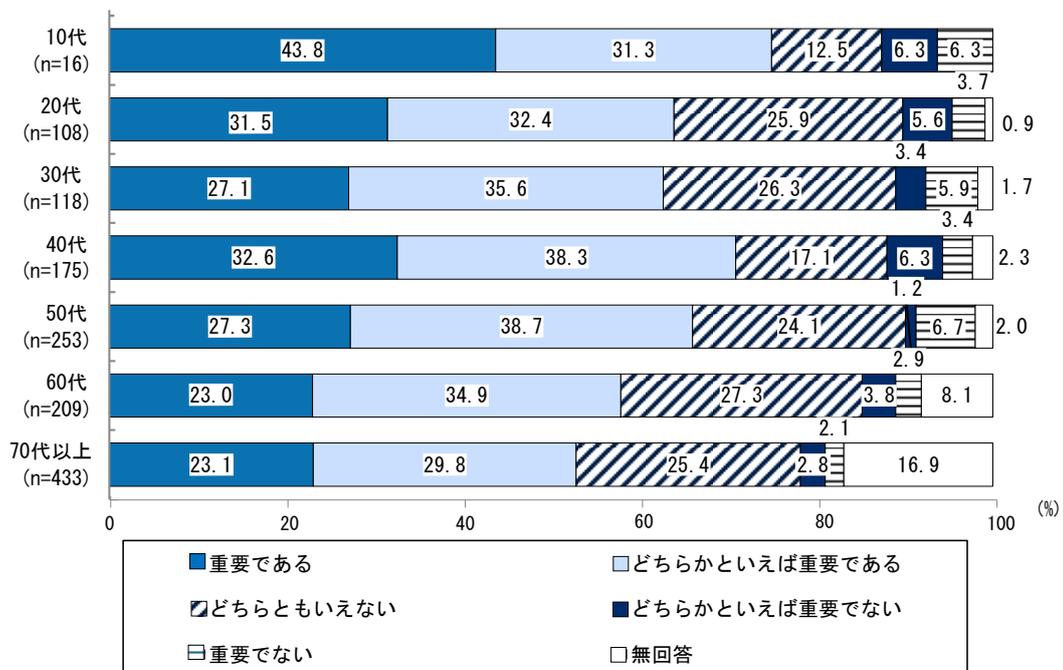
①「識字学級」「よみかき教室」「日本語教室」などによる識字学習機会の提供



年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、すべての年代で50%を超えており、10代で81.3%、40代で76.6%、20代で73.1%となっている。(図 2-33)

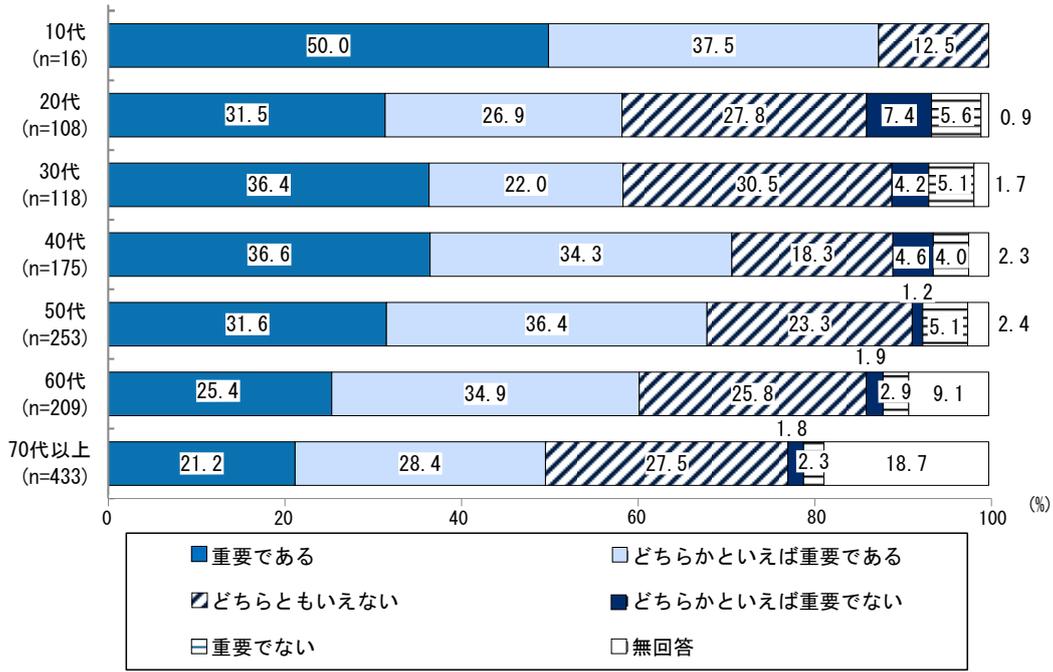
図 2-34 年代別 識字問題への取組の重要度

②市政だより・市ウェブサイトなどを通じた識字情報の提供・発信



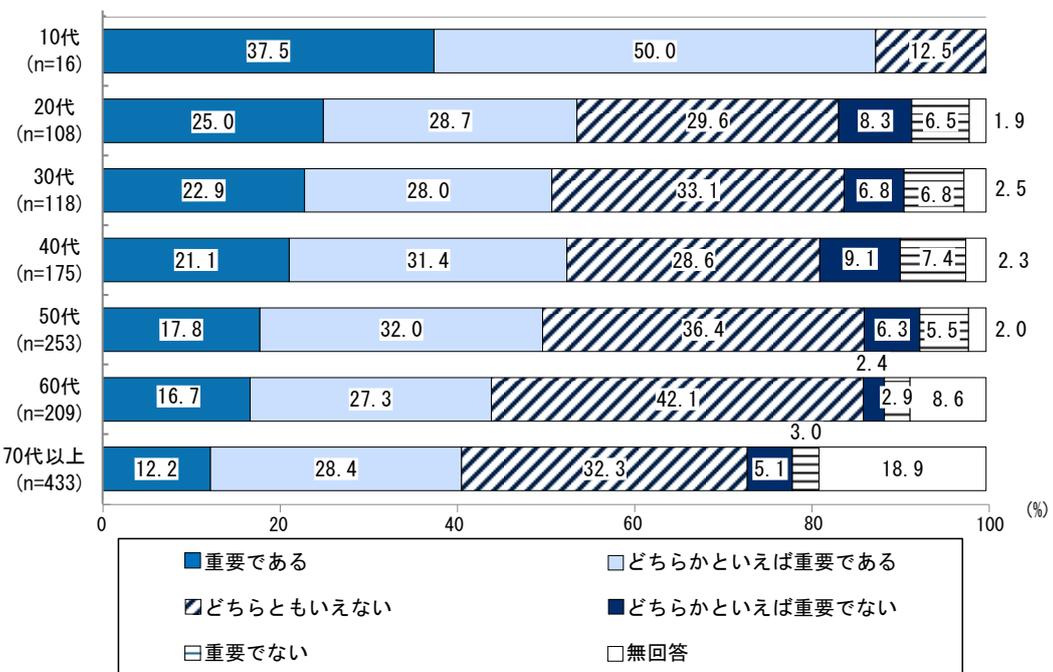
年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、すべての年代で50%を超えており、10代で75.1%、40代で70.9%、50代で66.0%となっている。(図 2-34)

図 2-35 年代別 識字問題への取組の重要度
◎行政による読み書きの相談



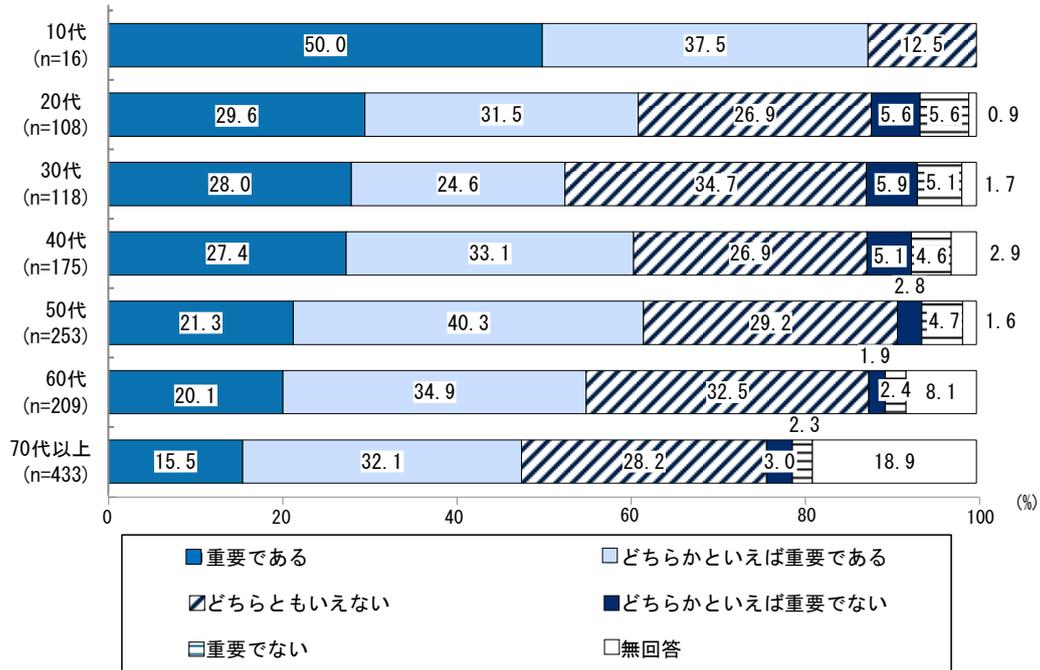
年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、60代以下で50%を超えており、10代で87.5%、40代で70.9%、50代で68.0%となっている。(図 2-35)

図 2-36 年代別 識字問題への取組の重要度
①「国際識字デー・市民のつどい」 「識字展」などのイベントによる啓発活動



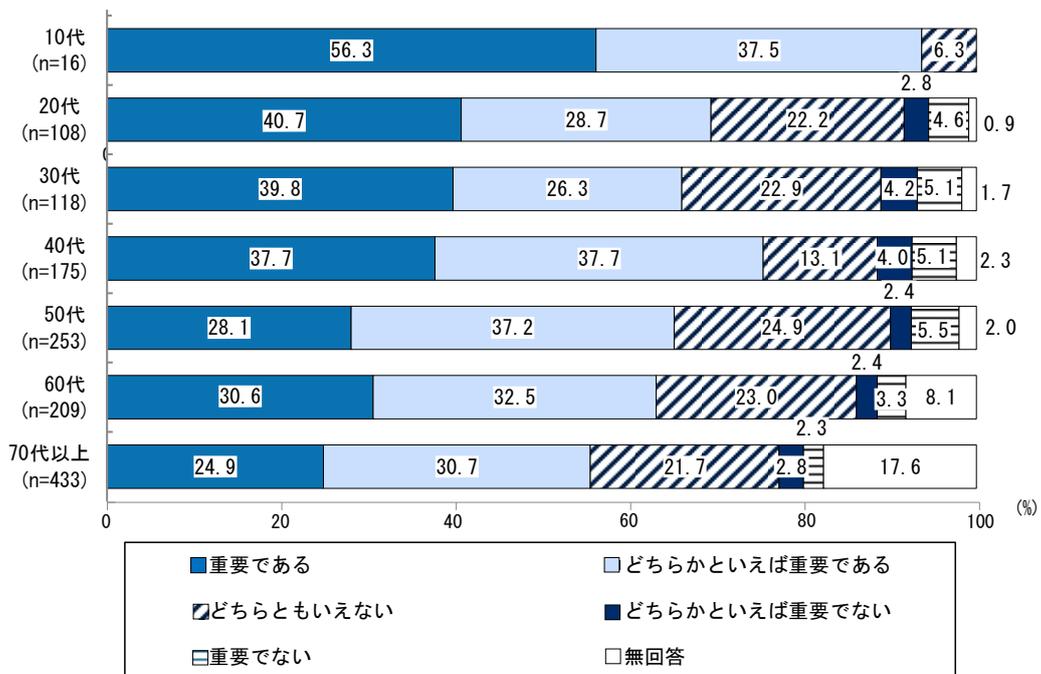
年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、40代以下で50%を超えており、10代で87.5%、20代で53.7%、40代で52.5%となっている。(図 2-36)

図 2-37 年代別 識字問題への取組の重要度
 ㊦日本語学習に係るボランティア参加の仕組みづくり



年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、60代以下で50%を超えており、10代で87.5%、50代で61.6%、20代で61.1%となっている。(図 2-37)

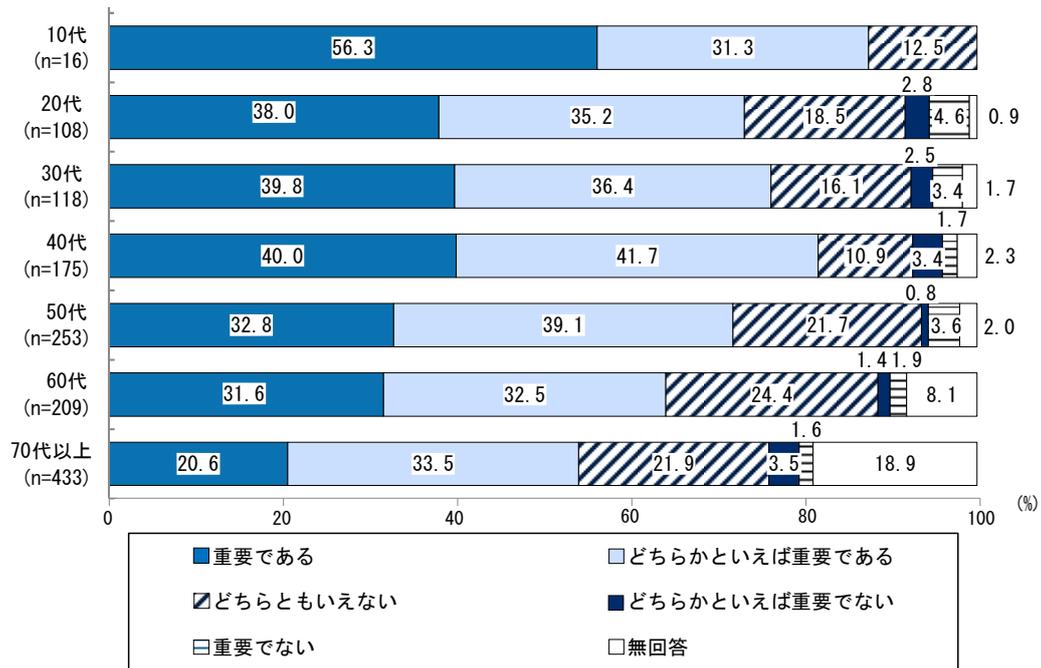
図 2-38 年代別 識字問題への取組の重要度
 ㊦市政だより・チラシ・ポスターなどのふりがな、外国語表記やピクトグラムによる案内表示



年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、すべての年代で50%を超えており、10代で93.8%、40代で75.4%、20代で69.4%となっている。(図 2-38)

図 2-39 年代別 識字問題への取組の重要度

◎点字や手話など識字学習機会の提供



年代別にみると、「重要である」と「どちらかといえば重要である」をあわせた『重要である』の回答は、すべての年代で50%を超えており、10代で87.6%、40代で81.7%、30代で76.2%となっている。(図 2-39)